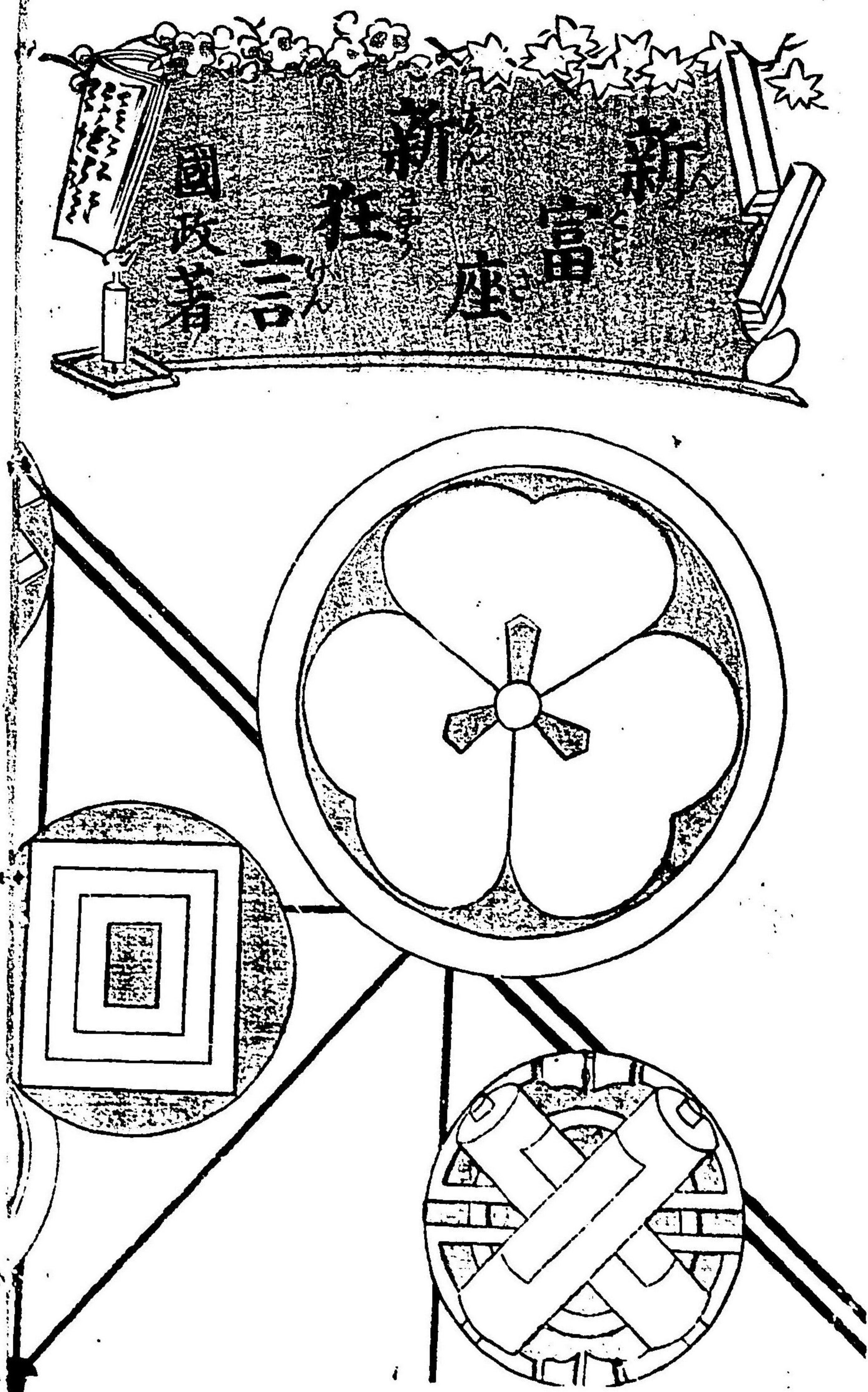




879



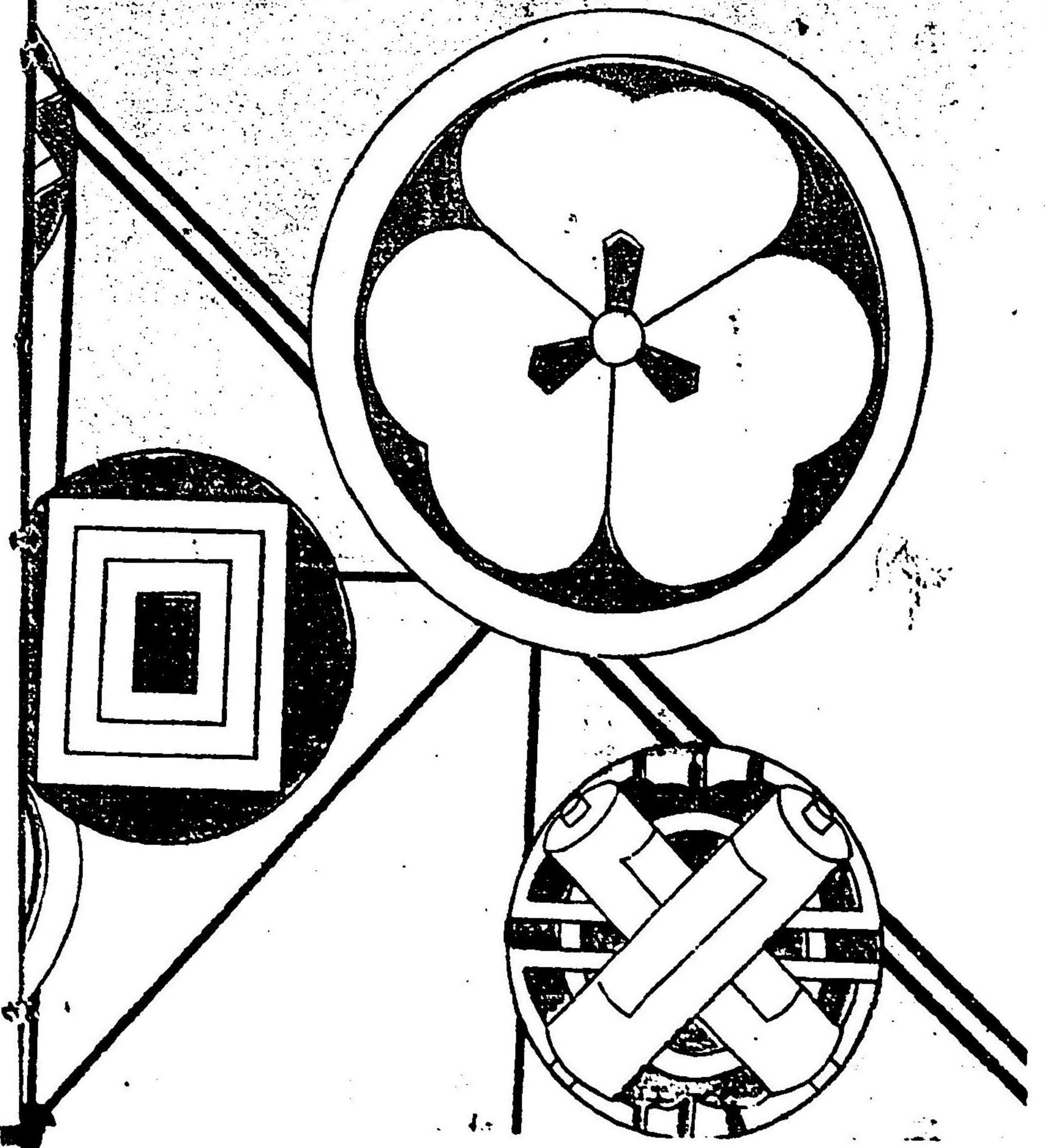
小夜礎宇都谷峠序文
 目闇が京へ登ると云昔の頃の諺のひらきど自慢やききと愚生の
 無学文盲世の中も渡り兼れる意氣地なるを狂言讀より
 書たりまらるる三度の飯を四度食好おと物の下手男あまごの
 少も取得も今草紙の序あらへるし然もは是れは序を
 せよとこれこれ俣不請合と素より智恵なる趣向なる詮方は
 小不才を掩い唐の俗語を切ぬいさり不吞込る和語も連ひてま
 しい盲家を嘘うすとも後より元る不文章それより矢張書肆の
 爲小平はくならそ一向小澤山御求御覽を希ふと述る

明治十六年八月

梅堂國政識



下下シコ



夜礎宇都谷峠序文

百聞が京へ登ると云昔の頃の諺に「白濁のやまの愚生は
 無学文盲世の中も渡り羨むる意氣地なり」とは辭讀り
 たりもするへ二度の飯を四度食好おと物の下手男の
 も取得ある今草紙の序あるは然るは是れは序を
 ともとこれい保ふ請合と素より智慧なる趣向なる詮方色
 不才を掩い唐の俗語を切ぬいり不吞込る和語も連ひてま
 けけ家々を嘘うすとも後より元るへ和文章それより矢張書肆の
 為平はくちるへ一向ふ澤山御求御覽を希ふと述る

明治十六年八月

梅堂國政識



下平山



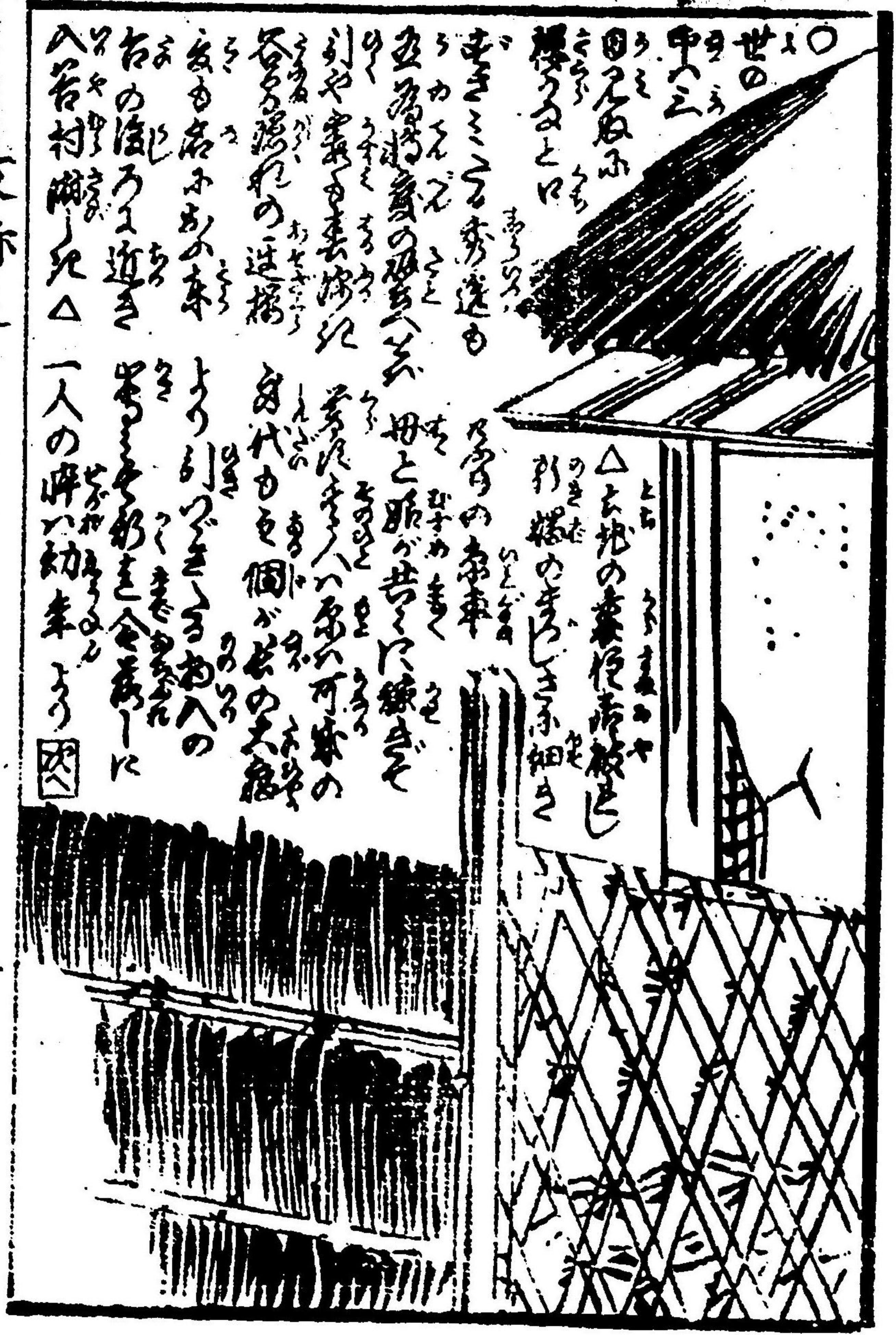
三ノ者ノイノ...



和藤内
伍將軍甘輝

毛刺丸右門

藤原義経



世の
甲入
目入
標

△と地の...
新編の...

入若村...
一人の...
△

一ノ...

月の子らるるをわがうせめていふかか百友
 もあつたふおれくやうしう入直候と
 ありてま疾り今の曇目と
 又せうきつる明うらまひ
 かんえんえん人とも
 だんくつぐく宅
 の不うまは
 あん積舟の
 だんあて
 けせのく
 音とひなん



用果ゆく音用と
 けいじそふ
 狭やと音た
 候かふまう
 一があひの
 ちんえいおき
 是女跡ううおまき
 せまの
 十五
 へん
 とあ

今ふもあひくつひま
 かくとひつそせ
 びう七積舟もあひくつひの
 音人とまり
 母人もあひくつひ
 さあもあひくつひ
 と音ひひま
 とけひひま
 是あひくつひ
 かはさそ積
 ちああ母
 祝由

文殊



文やが
 ひとあひか
 けうのあ世の
 用水
 何と何と
 市女と
 ちんえいおき
 何と何と
 何と何と



今更さう
 吐くぞ
 百もあはれ
 友はも
 のあり
 仲る
 の人の中
 教まらぬ
 其の
 言ふことその人
 ならぬのあはれと

▲此のあはれは
 言ふことその人

此のあはれは
 言ふことその人



甲斐の如の身
 外もあはれ
 何れもあはれ
 今更さう
 吐くぞ
 百もあはれ
 友はも
 のあり
 仲る
 の人の中
 教まらぬ
 其の
 言ふことその人
 ならぬのあはれと

小きん

家の色
 言ふことその人



万中の様子と
 委細おくりませ

三三の仁三

三三の仁三
 三三の仁三
 三三の仁三

三三の仁三
 三三の仁三
 三三の仁三

三三の仁三

三三の仁三



人と形とを
 ちの如くへ文殊

文殊

世に七転八起の
 世に七転八起の
 世に七転八起の

三三の仁三
 三三の仁三

三三の仁三
 三三の仁三

三三の仁三

三三の仁三



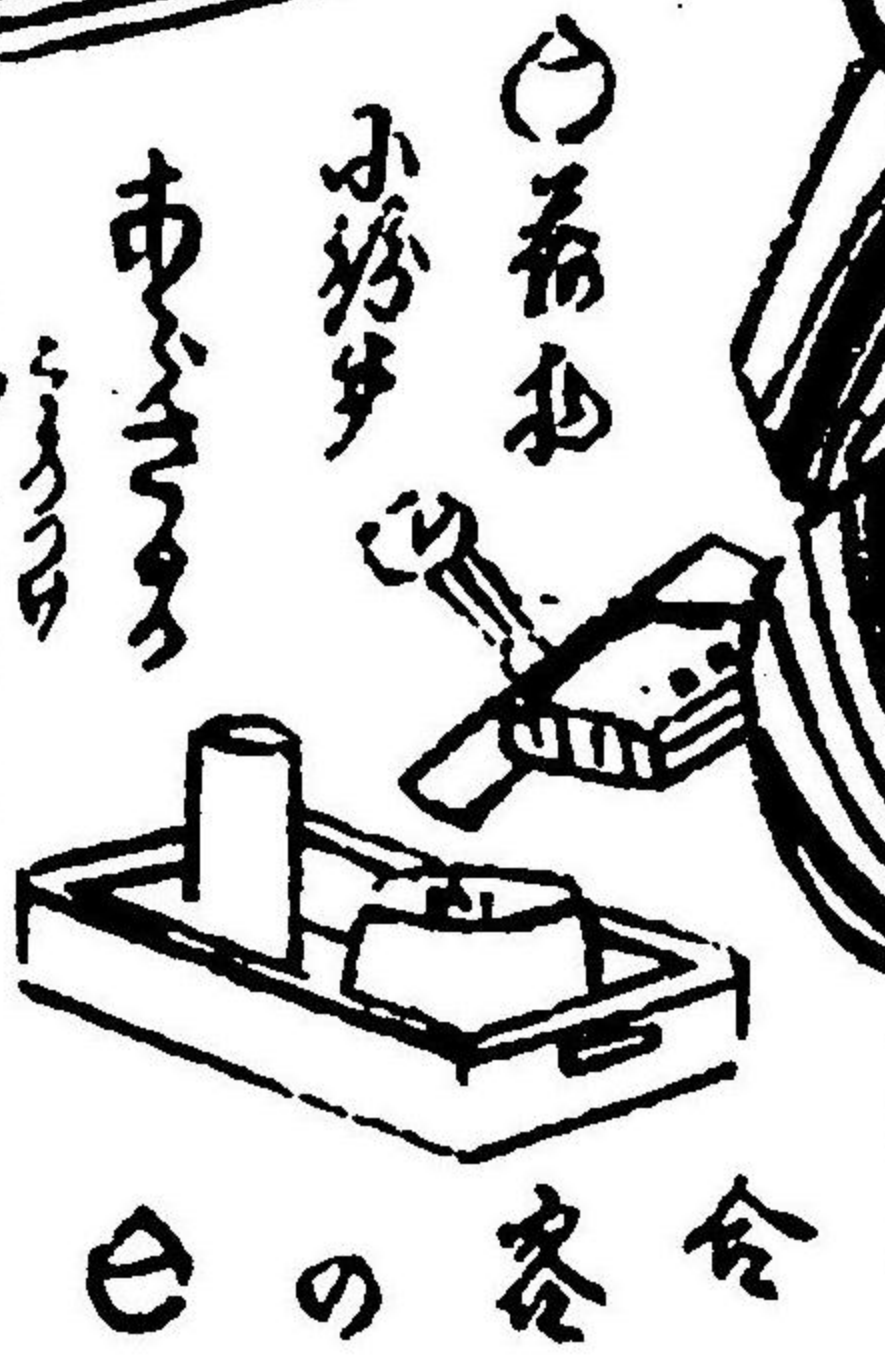
思慮の種も
 懐いたまは

文弥

重兵衛

○せな

ふ曲者ハ
 通るハ
 主様ハ
 うぐ
 有様
 なる
 まり
 なる



合茶の台

○茶碗
 小茶碗
 市茶碗
 とひ茶碗

はてしなくの

茶碗と市茶碗

おれ茶碗の茶碗

茶碗と市茶碗

次の茶碗と市茶碗

茶碗と市茶碗

茶碗と市茶碗

くまのうらひ
 家小流りたる
 商人仲の合家へ
 密ろ不起出將入る
 文やが合家へ密びくつおまの
 合子で奪ひた交と格差は
 つも奪ふのくえおんとりり
 合家へくつしお如何はしん
 合家のつてうのきまおまはて
 病しはとまてくつおまの故
 影るお越て曲者がるおま
 足とわえつてけ盗入おと▲
 知てをまおま

文弥

文弥



のきとんそ
 如何小羽春
 のらく
 乳小あふさ
 其の敷るた境
 けりてささく
 くとるへ出で
 女の
 重兵衛
 なるゆえ人て被ぬが
 業るさんといふ
 望入るまへ

重兵衛
 子
 小



始めりて
 先小念高の天
 らは遂小
 白状は
 疾を
 自さ
 其の
 右
 人
 戸
 如

重兵衛
 子
 小

長蛇の毒と毒のてらりとて

文殊のふりてびくあつて

〇おの御用を

去来の有人文殊の

つくをふて奪ひ

たふせんと

あつてると

不什援助

根株と何れを

養分を

海乃の

と初世

提議の仁三



本

山

山

山

濠洲縣 今常盤布施譚

松林伯内 西堂因政画

雪の梅女庭訓

梅の内宮村編 西堂因政画

北廓 花盛紫

春草史彦作 西堂因政画

手鞠歌笠守於仙

春草史彦作 西堂因政画

雪月花三遊新話

藤田仙果録 三社の由來

花雲浅草詣

梅堂因政著 歌川国梅画

赤城磯大石真傳

三平 西堂因政画

石山軍記

西堂因政著

大高源吾雅人傳

天野丞義烈快傳

川中島合戦

西堂因政著

神崎子五郎誠忠美記

佐倉宗五郎實傳

賤ヶ嶽七ヶ峠

上下

堀部兵衛三回復讐

鬼和尙 兎悪傳月極

太閤記山崎合戦

全

酒徳利の白鳥

六三三世相夢

耕雲齋武田の軍配

八冊

村松三太夫柱切之傳

三三 徳重昔八丈

一日水軍記

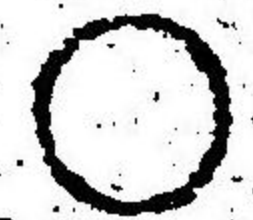
十冊

四野若 路情意忍路

七 結文情實説

一代記切付物

全



地本
繪双紙

問屋

伊勢屋
松延堂

大西庄之助版

東京日本橋區松島町水天宮前

